エコアクション21
認証番号0011169

環境経営レポート2022

対象期間：2022/4/1～2023/3/31

発行日：2023/8/1

エコシステム山陽株式会社

ECO-SYSTEM SANYO CO.,LTD.

目次

1　環境経営方針----------P3
2　組織の概要----------P4
3　施設の概要----------P5
4　適用範囲図（処理工程図）----------P6
5　適用範囲図2（図面）----------P7
6　許可事項----------P8
7　役割・責任・権限の一覧表----------P9
8　環境への負荷の状況----------P10
9　2022年～2024年の環境経営目標（中期計画）----------P11
10　2022年度環境経営計画及びその実績----------P12
11　2023年度の環境経営計画と目標----------P13
12　環境関連法規等の遵守状況----------P14
13　コミュニケーション----------P15～16
14　全体の評価と見直し・指示----------P17

環 境 経 営 方 針

基本理念

エコシステム山陽株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであると認識し、社会的・公共的使命を自覚して、産業廃棄物処理事業を通じ、持続可能な社会づくりに貢献します。

エコシステム山陽株式会社は、事業活動の結果排出されるものからの環境影響、及びエネルギーの消費を環境経営の重要課題と捉え、環境への負荷を低減し、またエネルギーをはじめすべての資源の有効活用に配慮した環境管理を行うことをチャンスと捉え、継続的な環境保全活動に取り組むことを誓約します。

活動方針

エコシステム山陽株式会社は環境マネジメントシステムを確立し、維持し、運用することによって環境保全活動を進めていきます。

1. 次の事項について環境目標、活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
   ①排出物の環境負荷の削減
   - 排ガスの環境負荷の削減
   - 燃えがら、ばいじん等の減量化、減容化、再資源化

   ②二酸化炭素排出量の削減
   - 省エネルギー（燃料、電気など）
   - WtoEの推進（熱回収認定の取得など）

   ③各種資材の消費量抑制
   - 資材原単位の削減（上水、キレートなど）

2. 事業活動に係わる環境関連法規・協定及び、環境保全のために要求される事項の達成と順守に努めます。

3. この環境経営方針は文書化し、従業員及び当社のために働くすべての要員に周知するとともに、一般の 人にも要求に応じて公開します。

4. 上記の環境への取り組みとともに、会社は公器であるという自覚を持ち、全従業員に企業倫理を周知し、社会規範を遵守するとともに、地域との共生、社会貢献に努めます。

制定日 平成 9年10月1日
改訂日 2022年4月1日

エコシステム山陽株式会社　代表取締役　山田　耕司

組織の概要

◎事業所名　エコシステム山陽株式会社

◎代表者　代表取締役常務　山田　耕司

◎設立　昭和52年10月12日
（岡山砿油株式会社として設立）

◎所在地

〒708-1523
岡山県久米郡美咲町吉ヶ原1125番地
電話　0868-62-1346
FAX　0868-62-1345

◎環境管理責任者および担当者

責任者　取締役工場長　　武正 圭史
担当者　安全衛生課　　橘 裕之

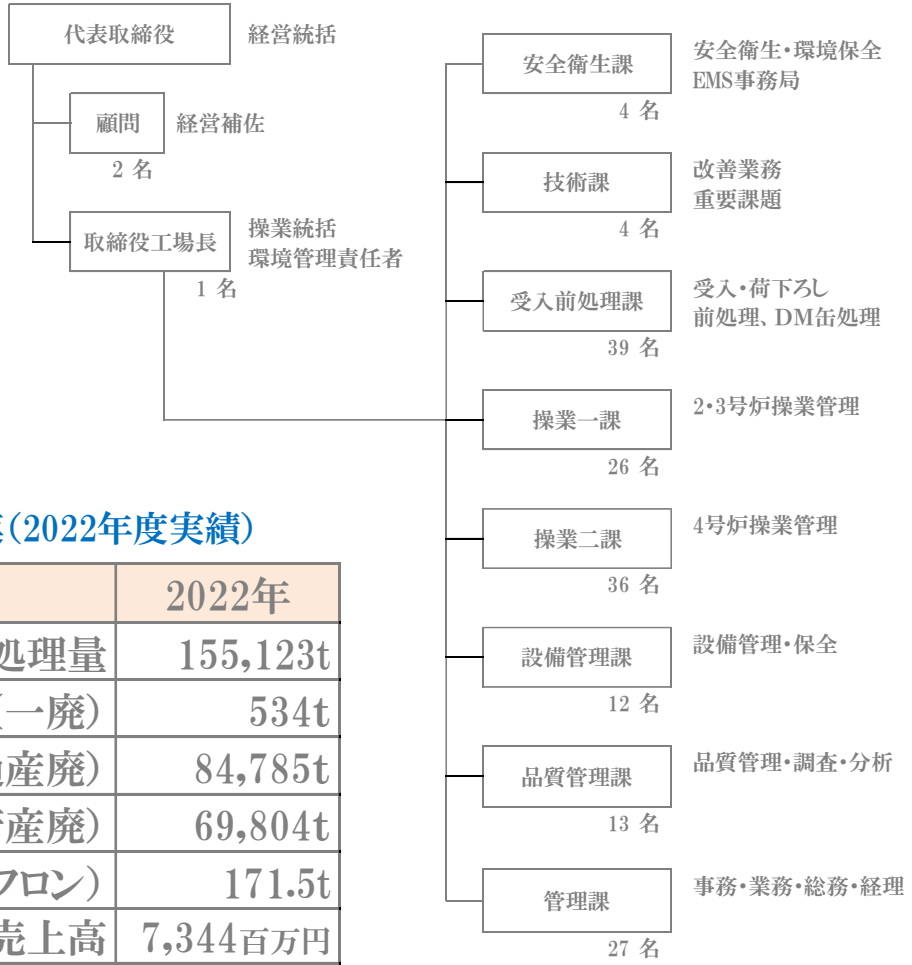
◎事業内容（認証・登録範囲）

一般廃棄物中間処理
産業廃棄物中間処理
特別管理産業廃棄物中間処理
フロン類破壊業

◎資本金　1億円

◎体制図　エコシステム山陽株式会社（2023年3月31日現在　165名）

作成日 2023年3/31
作成者 妹尾和臣



◎事業規模（2022年度実績）

	2022年
処理量	155,123t
内訳（一廃）	534t
（普通産廃）	84,785t
（特管産廃）	69,804t
（フロン）	171.5t
売上高	7,344百万円
従業員	171人
事業場面積	89,214m2

施設の概要

1．焼却設備（2号炉）

設置年月日：平成3年10月1日
処理施設の種類：焼却施設（許可品目は8P処分業許可内容を参照）
処理能力：廃棄物処理能力　混焼例　280 t /日
　　フロン類破壊能力　720kg/日
稼働時間：24hr/日
処理方式：ロータリーキルン

2．焼却設備（3号炉）

設置年月日：平成10年4月30日
処理施設の種類：焼却施設（許可品目は8P処分業許可内容を参照）
処理能力：廃棄物処理能力　混焼例　380 t /日
　　フロン類破壊能力　1,200kg/日
稼働時間：24hr/日
処理方式：ロータリーキルン

3．焼却設備（4号炉）

設置年月日：平成23年8月12日
処理施設の種類：焼却施設（許可品目は8P処分業許可内容を参照）
処理能力：品目別許可数量　60 t /日、廃PCB等　4 t /日
稼働時間：24hr/日
処理方式：台車式連続炉

4．破砕施設

設置年月日：平成8年6月21日
処理施設の種類：廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず
　　・コンクリートくず（がれき類を除く）・陶磁器くずの破砕施設（破砕後に全量焼却）
処理能力：3.42 t /日
稼働時間：8hr/日
処理方式：破砕機

5．混練施設

設置年月日：平成11年8月10日
処理施設の種類：燃え殻の混練施設
（自ら行った処分に係る中間処理産業廃棄物に限り、石綿含有産業廃棄物を除く）
処理能力：150 t /日
稼働時間：12hr/日
処理方式：重機を用い、燃え殻の無害化等混錬処理（pH、熱灼減量調整等）を行う

6．積替え保管施設

設置年月日：令和2年3月23日
処理施設の種類：積替え又は保管施設（産業廃棄物14種類、特別管理産業廃棄物6種類）
面積：産業廃棄物：633,105㎡、特別管理産業廃棄物：614,855㎡）
処理能力：保管上限（産業廃棄物：1,036,123㎥、特別管理産業廃棄物：981,375㎥）
　　積み上げることができる高さ（屋内保管のため制限なし）

1

2

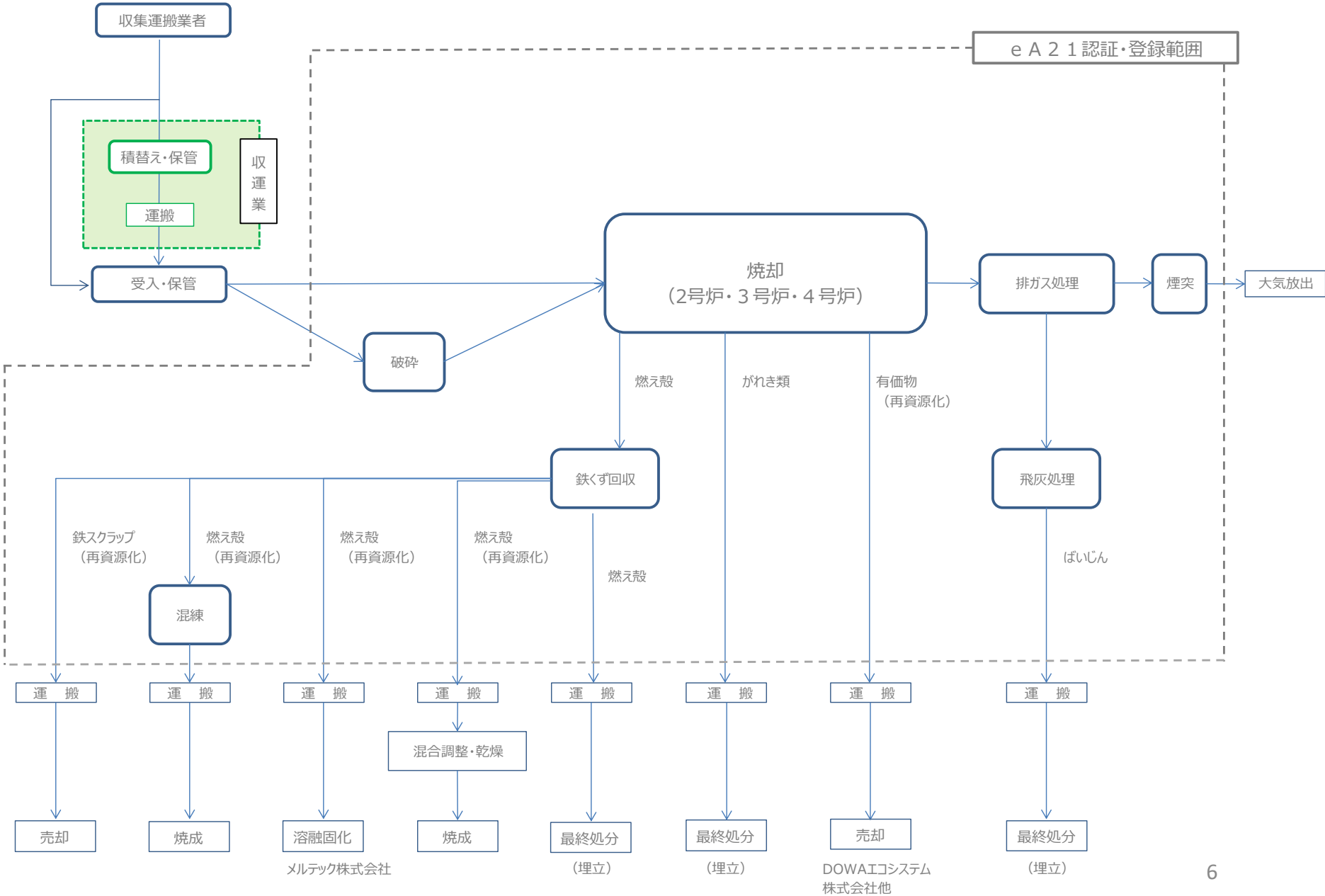
3

4

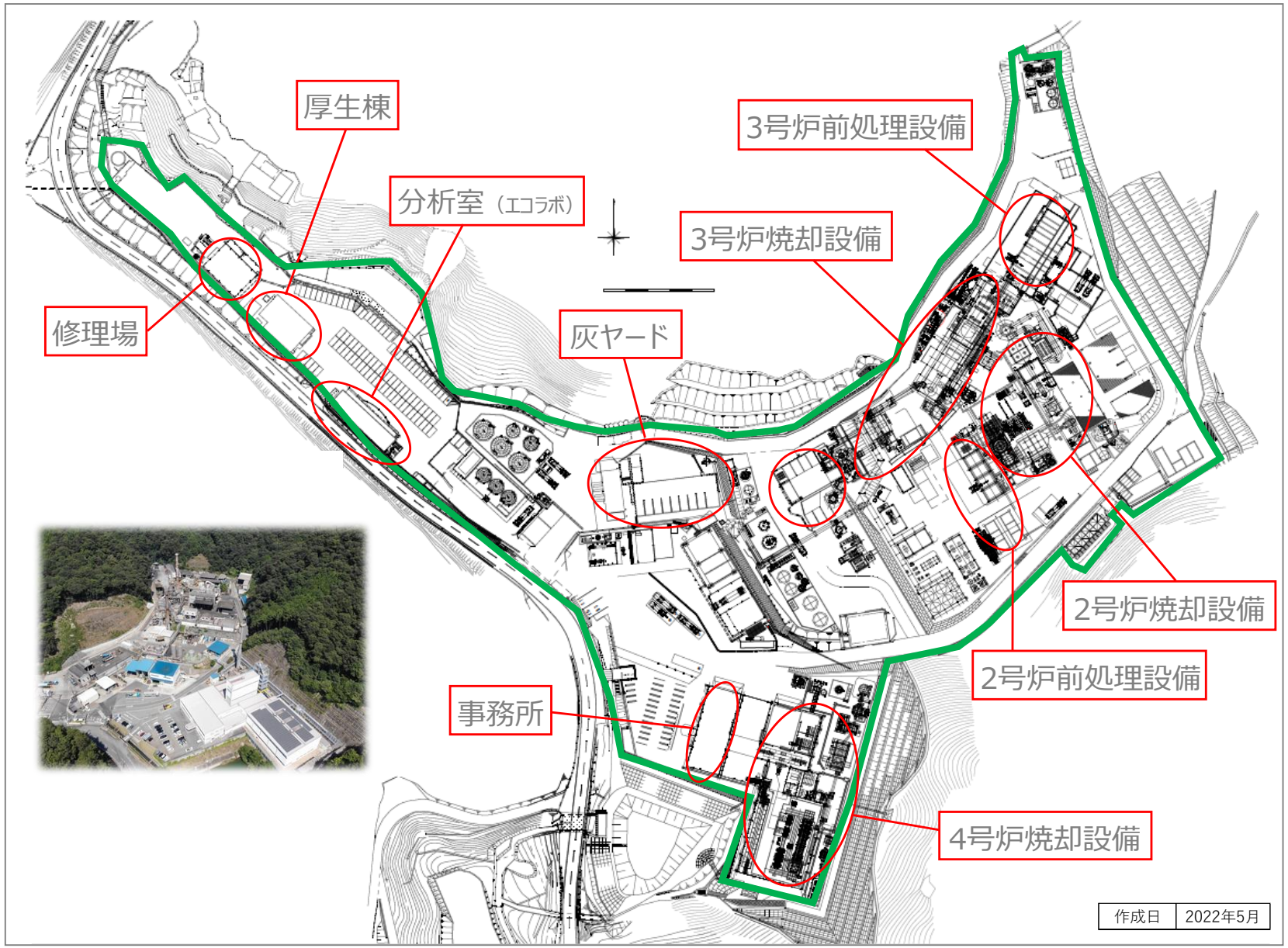
5

6

適用範囲図（処理工程図）


収集運搬業者
ｅＡ２１認証・登録範囲
積替え・保管
運搬
収運業
受入・保管
破砕
焼却
（2号炉・３号炉・４号炉）
排ガス処理
煙突
大気放出
燃え殻
がれき類
有価物
（再資源化）
鉄くず回収
飛灰処理
鉄スクラップ
（再資源化）
燃え殻
（再資源化）
燃え殻
（再資源化）
燃え殻
（再資源化）
燃え殻
ばいじん
混練
運　搬
混合調整・乾燥
売却
焼成
溶融固化
メルテック株式会社
焼成
最終処分
（埋立）
最終処分
（埋立）
売却
DOWAエコシステム
株式会社他
最終処分
（埋立）

適用範囲図（図面）


厚生棟
分析室（エコラボ）
修理場
3号炉前処理設備
3号炉焼却設備
灰ヤード
2号炉焼却設備
2号炉前処理設備
事務所
4号炉焼却設備
作成日
2022年5月

許可事項(2023年3月末時点)

優良

★2012年より優良産廃処理業者として認定済

【産業廃棄物処分業許可】

普通産廃	
許可の年月日	平成31年2月15日
有効期限	令和8年2月14日
許可番号	第03328130543号
事業区分	中間処理(焼却、破砕、混錬)

特管産廃	
許可の年月日	平成31年2月15日
有効期限	令和8年2月14日
許可番号	第03378130543号
事業区分	中間処理(焼却、混錬)

【フロン類破壊業者変更許可】

許可の年月日	令和4年8月24日
有効期限	令和8年10月1日
許可番号	2021H0097
破壊しようとするフロン類の種類	CFC、HCFC、HFC

【産業廃棄物処理施設設置許可】

【2号炉】	
許可の年月日	平成30年7月6日
許可番号	第8-(13-2)-2号

【3号炉】	
許可の年月日	平成30年7月6日
許可番号	第8-(13-2)-3号

【産業廃棄物処理施設変更許可】

【4号炉】	
許可の 年月日	平成28年2月3日
許可番号	第8-(12)-1号

【一般廃棄物処理施設設置許可】

【3号炉】	
許可の 年月日	平成15年3月12日
許可番号	800002
種類	可燃ごみ、焼却灰等

【特例一般廃棄物処理施設設置届出】

【2号炉】	
許可の 年月日	平成30年7月6日
許可番号	第8-(13-2)-2号
処理する一般廃棄物の種類	金属くずと廃プラスチック類の混合物が一般廃棄物になったもの

【4号炉】	
許可の 年月日	平成28年2月3日
許可番号	第8-(12)-1号
処理する一般廃棄物の種類	金属くずと廃プラスチック類の混合物が一般廃棄物になったもの

〇は2号炉、3号炉における焼却処理。ただし、水銀　　は該当項目なし。

◎は2号炉、3号炉、4号炉で取り扱う廃棄物　　※一般廃棄物は可燃ごみ・焼却灰等のみ

取り扱う産業廃棄物一覧表の種類	焼却	破砕
燃え殻	◎	
汚泥	◎	
廃油	◎	
廃酸	○	
廃アルカリ	○	
廃プラスチック類	◎	○
紙くず	○	○
木くず	○	○
繊維くず	○	○
動植物性残さ	○	
動物系固形不要物		
ゴムくず	○	○
金属くず	◎	○
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	◎	○
鉱さい	○	
がれき類	◎	
動物のふん尿		
動物の死体		
ばいじん	◎	
１３号廃棄物		

取り扱う特別管理産業廃棄物の種類	焼却
廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	○
廃酸（pH2.0以下のもの）	○
廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	○
感染性産業廃棄物	○
廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物 ※1	◎
廃石綿等	

取り扱う有害物質の種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	鉱さい	ばいじん	指定下水汚泥
水銀(アルキル水銀を含む。)		○		○	○	○	○	
カドミウム	○	○		○	○	○	○	
鉛	○	○		○	○	○	○	
有機燐化合物		○		○	○			
六価クロム化合物	○	○		○	○	○	○	
砒素	○	○		○	○	○	○	
シアン化合物		○		○	○			
1,4-ジオキサン		○	○	○	○		○	
ポリ塩化ビフェニル								
トリクロロエチレン		○	○	○	○			
テトラクロロエチレン		○	○	○	○			
ジクロロメタン		○	○	○	○			
四塩化炭素		○	○	○	○			
1,2-ジクロロエタン		○	○	○	○			
1,1-ジクロロエチレン		○	○	○	○			
ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ		○	○	○	○			
1,1,1-トリクロロエタン		○	○	○	○			
1,1,2-トリクロロエタン		○	○	○	○			
1,3-ジクロロプロペン		○	○	○	○			
チウラム		○		○	○			
シマジン		○		○	○			
チオベンカルブ		○						
ベンゼン		○	○	○	○			
セレン								
ダイオキシン類	○	○		○	○		○	

※1　低濃度PCB廃棄物に限る

役割・責任・権限の一覧表

組織	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの運用のために必要となる経営資源(人、もの、資金、情報)の用意 ・環境管理責任者の任命 ・環境方針の作成、承認および全従業員への周知 ・代表者による全体の見直し・評価と指示 ・環境活動リポートの承認 ・外部コミュニケーション案件の承認
環境管理責任者	・環境管理システムの構築、実施、管理 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境関連法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境目標の設定を承認 ・環境活動実施計画の承認 ・環境管理委員会の統括 ・外部コミュニケーション対応

組織	役割・責任・権限
課長	・職場における環境管理システムの実施 ・法的要求事項の順守の確認 ・職場における環境方針の周知 ・職場の従業員に対する教育及び訓練の実施 ・職場に関連する環境目標及び環境活動計画のPDCA履行 ・職場に特定された緊急事態対応のための手順作成、テスト、訓練 ・職場の問題点の発見、是正、予防措置 ・職場の環境関連文書、記録の承認 ・外部コミュニケーション対応
環境管理事務局	・環境活動レポートの作成 ・環境活動実施計画の作成 ・環境関連文書の管理 ・監査計画の作成 ・環境管理委員会の運営
従業員（全員）	・環境方針の理解、環境への取組の重要性認識 ・決められたことの順守、自主的・積極的な環境活動への参画 ・環境負荷物質の計測と報告 ・省エネ、省資源施策への参画

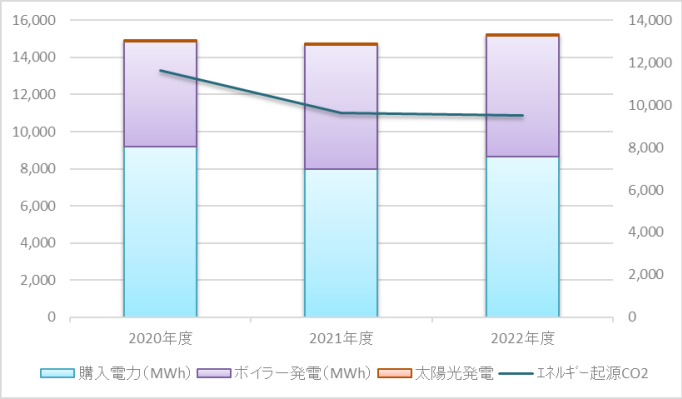
環境への負荷の状況

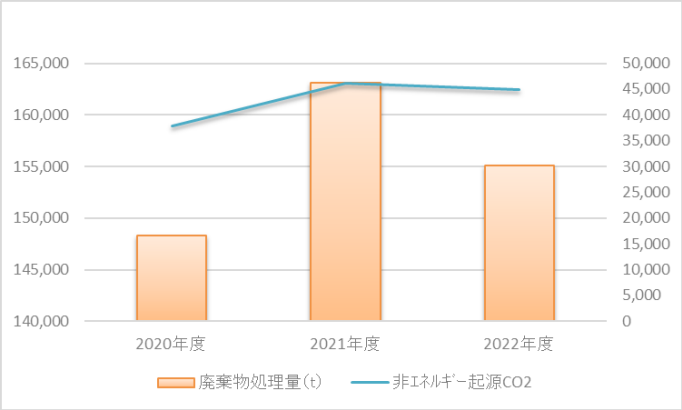
・環境へ与える負荷としては異常な増減は認められず、適正な事業の運営が図れていると判断できます。
・近年課題として重要度が高まっているCO2削減についてもエネルギー由来中心に徐々に削減が図れています。

環境への負荷		単位	2020年度	2021年度	2022年度
廃棄物処理量		t	148,320	163,127	155,123
再資源化量（燃え殻、スクラップ等）		t	13,380	16,791	14,800
① 二酸化炭素総排出量	ｴﾈﾙｷﾞｰ起源CO2	t-CO2	11,630	9,624	9,497
	非ｴﾈﾙｷﾞｰ起源CO2		37,839	46,072	44,884
② 廃棄物最終処分量	燃え殻、ばいじん、がれき	t	40,278	42,149	42,954
③-1 総排水量 ※	公共用水域	m3	–	–	–
③-2 水使用量	上水		10,828	10,799	10,180
④ 化学物質使用量（PRTR法）	ダイオキシン類	kg	0.000679	0.001414	0.004644
	水銀		–	–	170.1
	オルソジクロルベンゼン		–	–	3,000
⑤ 電力使用量	購入電力	MWh	9,173	8,001	8,674
	ボイラー発電		5,659	6,672	6,499
	太陽光発電		96	91	97

調整後排出係数(2020中国電力、2021出光興産、2022関西電力）0.585kg-CO2/kwh 0.540kg-CO2/kwh 0.350kg-CO2/kwh

※ 工程排水は焼却炉内へ噴霧処理するため、公共用水域、下水道への排出はない
生活雑排水は浄化槽で処理して排出している
※ 購入電力のCO2排出係数は、該当年度の購入電力会社の調整後排出係数を参照





2022年～2024年の環境経営目標（中期計画）

・環境への負荷の状況や足元の課題やチャンスを踏まえ、2022年度～2024年度の3ヵ年中期計画を策定しました。
・2022年度は3ヵ年計画の初年度であり、以下に挙げる取組のスタートの年となる。目標未達のテーマはあるものの、全体的には前進できていると評価しました。

要求事項	中期計画目標（貢献するSDGs）	2022年中計目標	実績	評価
CO2排出量の削減	エネルギー由来CO2削減 2013年度比△46%削減	2013年度CO2排出量△40%	△43%	○
廃棄物排出量の削減	燃え殻リサイクル率25%	20%/年	17%/年	×
	LIB等リサイクルの推進	270t/年	129t/年	×
水使用量の削減	上水使用量の削減 前年度比△9%	BM△3%　平均1,030m3/年	BM△17%　平均880m3/年 →中期計画目標を23%へ変更	○
化学物質使用量の削減	使用原単位の改善	消石灰、キレート原単位改善	改善効果あり	○
その他環境配慮項目	難処理廃棄物処理サービスの推進	フロン、イソシア処理推進	設備化、処理開始	○
	モーダルシフトの推進	燃え殻運搬鉄道輸送推進	トライアル出荷の実施	○
	地域環境配慮	臭気クレームゼロ化	3件	×

作成/更新日：2023/3/31
作成者：妹尾和臣

2022年度　環境経営目標、計画及びその実績

・中期計画からブレークダウンした個別部署でのテーマの進捗は以下の通りです。
・リサイクルなどの施策に目標未達がみられるものの、各部署が偏りなく環境管理活動に参画し、一定の成果を出すことができました。

要求事項	部署	目標	目標値	実績	評価
CO2排出量の削減	操業二課	灯油使用量削減	再生油使用率33%	11.6%	×
	品質管理課	エコラボ電力量削減	前年比△1.5%	△9.4%	○
	設備管理課	蒸気利用設備の安定化	蒸気利用量21t/h以上	21.1t/h	○
		省エネ機器の導入	LED化90灯	110灯	○
	技術課	CCU技術の調査検討	技術調査、F/S	計画通り進捗	○
廃棄物排出量の削減	技術課	燃えがら乾燥の検討	技術調査、F/S	計画通り進捗	○
	管理課	燃えがらのリサイクル率向上	リサイクル率20%	17%	×
	操業二課	LIB等リサイクルの推進	270t/年	129t/年	×
水使用量の削減	管理課	場内の上水使用量削減	前年比△3%	△17%	○
	品質管理課	分析室の上水使用量削減	前年比△1.5%	+3.1%	×
化学物質使用量の削減	操業一課	消石灰使用原単位削減	33.4kg/t	32.5kg/t	○
		2号炉キレート使用原単位改善	0.8kg/t	0.4kg/t	○
その他環境配慮項目	管理課	モーダルシフト検討	輸送体制構築	12月より1車/月開始	○
	受前課	フロン破壊推進による温暖化防止貢献	18.7t	13.7t	×
		イソシアネート処理推進	351t/年	329t/年	△
	安全衛生課	臭気クレームの低減	0件	3件	×

作成/更新日：2023/3/31
作成者：妹尾和臣

2023年度の環境経営計画と目標

・2022年度の実績を受けて、2023年度の個別テーマの設定を行いました。
・昨年度からの変更点としては、水使用量削減のテーマを管理課テーマとして集約させました。

要求事項	目標	目標値	担当課
CO2排出量の削減	エネルギー由来CO2削減	ガス燃灯油使用量削減率33%以上	操業二課
	エコラボでの電気の使用量の削減	22年度比▲1.0% 使用量558.7百kWh/年(月47百kWh)↓ 削減量5.5百kWh/年	品質管理課
	蒸気利用設備の管理・監視による安定稼働	蒸気利用量； 22.2t/h以上	設備管理課
	省エネ機器の導入	計画的なLED化の推進	設備管理課
	CCU技術の調査、導入検討	CO2回収・販売のFS実施 CO2回収実証試験の実施判断	技術課
廃棄物排出量の削減	燃え殻乾燥による燃え殻搬出量の削減に向けた検討	技術的検討・F/Sの実施 ・燃殻乾燥方法の検証 ・乾燥試験による実行可否の検証	技術課
	燃えがらの埋立処分量削減	リサイクル率22%以上(累計) (ゼロエミ量÷合計燃え殻量)	管理課
	LIB等リサイクル処理の推進	300t/年	操業二課
水使用量の削減	上水使用量の削減	2021年度比△20%/年(850m3) (BM:2021/1-12平均 1,062m3)	管理課
化学物質使用量の削減	消石灰使用原単位削減	#3消石灰反応等量 1.38 ※反応等量で換算した原単位0.0319t/t-廃棄物 (対21年度比△7.0%)	操業一課
	キレート使用原単位の改善	#2キレート原単位0.30kg/t	操業一課
		飛灰合格率:85%以上/年	
その他環境配慮項目	関東向けゼロエミ灰輸送の鉄道利用	関東向けゼロエミ搬出の鉄道輸送比率3%(=中計)	管理課
	フロン破壊処理の推進	業務フロン33.55t/年受入れ	受前課
	イソシアネート処理の推進	直噴処理503t/年	
	日々の場外巡視による臭気モニタリングと異常時の確実な情報伝達	臭気クレーム 0件/年	安全衛生課
	場内異常時の確実な対応が出来るための訓練	・総合訓練、消火訓練、停電訓練、漏洩訓練、消火器消火訓練の実施(毎月1回)	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び結果、並びに違反等の有無

・環境関連法規の遵守状況については毎月の「遵法会議」にて確認しています。
・2022年度においては環境関連法規に関して違反は見られず、関係当局からの指摘はありませんでした。

○環境関連法規等の順守状況の確認及び結果

法規制の名前	遵守評価	
岡山県環境への負荷の低減に関する条例	毎月の遵法会議で確認	◎
晴れの国おかやま景観計画	2022年度該当無し	◎
美咲町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	遵法違反等無し、適正処理を継続中	◎
美咲町環境保全条例	2022年度協定値超えはなく、日々施策を進めている	◎
（美咲町との）公害防止に関する協定書	2022年度協定値超えはなく、日々施策を進めている	◎
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	毎月の遵法会議で確認	◎
フロン類の使用の合理化及び管理の適正に関する法律	毎月の遵法会議で確認	◎
	半期毎に点検を実施	◎
	2022.5提出を確認	◎
地球温暖化対策の推進に関する法律	2022.7報告済みを確認	◎
	2022.8報告済みを確認 計画は2022年に作成	◎
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	毎月の遵法会議で確認	◎
	毎月の遵法会議で確認	◎
	原本5年間保存及び違反無し	◎
	社内システムで管理	◎
	作成及び提出を確認	◎
	原本5年間保存	◎
	操業課、設備管理課により随時点検、記録を確認	◎
	実施及び管理継続中を確認	◎
	実施及び管理継続中を確認	◎
	実施及び管理継続中を確認	◎
	実施及び管理継続中を確認	◎
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	鉄等のスクラップは業者によりリサイクルへ	◎
悪臭防止法	連続測定による観測を確認	◎
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	毎月の遵法会議で確認	◎
毒物及び劇物取締法	毎月の遵法会議で確認	◎

法規制の名前	遵守評価	
消防法（危険物取扱に係る部分のみ）	毎月の遵法会議及び安全衛生課で管理を確認	◎
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	毎月の遵法会議で確認	◎
ダイオキシン類対策特別措置法	毎月の遵法会議で確認	◎
振動規制法	毎月の遵法会議で確認	◎
水質汚濁防止法	毎月の遵法会議及び品質管理課で管理を確認	◎
	2ヶ月に1回報告を確認	◎
浄化槽法	2022年度特に無し	◎
	毎月実施を確認	◎
騒音規制法	毎月の遵法会議で確認	◎
大気汚染防止法	毎月の遵法会議及び品質管理課で管理を確認	◎
	2ヶ月に1回報告を確認	◎
土壌汚染対策法	2023.1報告書の提出を確認	◎
使用済自動車の再資源化等に関する法律	2022年度適正に処理推進を確認	◎
計量法	自社計量機で日々確認及び毎月の遵法会議で確認	◎
道路交通法		◎
電気事業法	半期毎に提出を確認	◎
特定家庭用機器再商品化法	リサイクル券を用いての適正処理を確認	◎
水銀による環境の汚染の防止に関する法律	定期的に処理施設へ出荷を確認	◎

制定日	2022.07.10
評価日	2023.06.30

○違反・訴訟の有無

・無し

コミュニケーション

住民見学会の実施

コロナ禍が落ち着いてきたことから今年度は感染症対策を徹底して見学会を実施しました。
計3日間開催し、多くの方に事業の近況を知って頂くことができました。

第26回クリーン作戦への参加

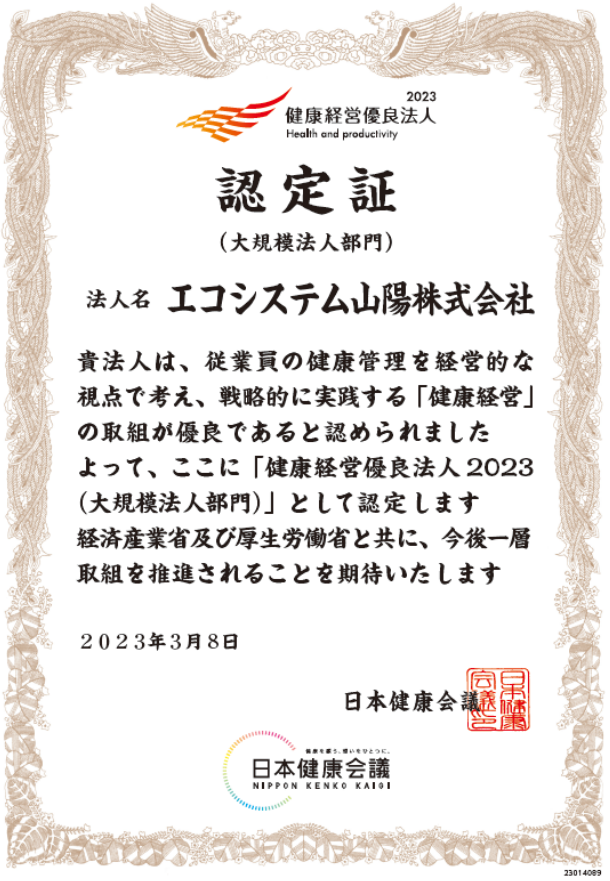
毎年岡山県産業資源循環協会の活動で実施している。
エコシステム山陽は該当地区の支部長を任されており、事前準備から積極的に運営。
多くの企業と一緒に不法投棄されたゴミの回収を実施しました。

学生向け見学会の実施

エコシステム山陽を学生に知ってもらう機会を増やす為、高専向けのバスツアーや職場見学、小学生向けにイベントを通しての見学会を開くなど、多くの方に知ってもらう機会を実施することができました。

コミュニケーション

・健康経営優良法人に認定されました



2023
健康経営優良法人
Health and productivity

認定証

（大規模法人部門）

法人名 エコシステム山陽株式会社

貴法人は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」の取組が優良であると認められました
よって、ここに「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」として認定します
経済産業省及び厚生労働省と共に、今後一層取組を推進されることを期待いたします

２０２３年３月８日

日本健康会議

日本健康会議
NIPPON KENKO KAIGI

23014089

・その他

地域のお祭りやイベントなどで、
寄付活動による社会貢献に努めました。

全体の評価と見直し・指示

1. レビュー日時 ： 2023年7月5日(水)

2. 対応者 ： 山田代表取締役、環境管理責任者、事務局

3. 代表者からの見直し、指示

2022年度活動についての評価

・環境への負荷は確実に低減されており、監査で指摘された事項も適切に対処がなされている。
マネジメントプログラムが適正になされていると評価できる。

（1） 環境経営方針に関わる見直し、指示

・代表者変更に伴い、環境経営方針が適切にできていることを確認できた。
・中間審査での指摘を受け、経営における課題とチャンスをより踏まえた環境経営方針への見直しを2023年度に向け準備していることを確認できた。

（2） 環境経営目標及び環境経営計画に関わる見直し、指示

・目標については中期計画からブレイクダウンされた計画になっており、適切であると判断できる。
・実績については未達の部分が何点か見受けられたが、工場ではコントロールできない営業要因が含まれる目標値については来年度以降目標のアップデートを行うこと。

（3） 実施体制に関わる見直し、指示

・実行組織については特に組織上変更が無いので見直しの必要性は無しと判断する。
・EA21の適用範囲についても概ね変更は無いので見直しの必要性は無しと判断する。

（4） その他活動内容に関わる見直し、指示

・コロナによる行動制限もなくなってきた為、今後外部コミュニケーションを活発にし、より地域社会との共生を目指していきましょう。
・2022年度では健康経営優良法人の登録がなされたので、本件についても積極的にアピールして下さい。